

令和8年度 学校経営計画

1. 学校教育目標 **みがき合い 支え合う 心豊かでたくましく生きる生徒**

2. 建学の精神 ～校歌より～

「忍と耐」 「一人の友も置きさらじ」 「世界の空を天駆けん」

3. 学校経営方針 「自律・共生・創造」

4. 目指す生徒像

- (1) 夢や理想の実現に向けて自ら挑戦し、一生懸命取り組む生徒（自律）
- (2) 自他の生命を尊重し、思いやりと感謝の心を大切にする生徒（共生）
- (3) よりよい未来に向けて、学校や地域の中で進んで社会貢献する生徒（創造）

具体的な目指す姿
自律（挑戦し一生懸命取り組む生徒） <ul style="list-style-type: none">○進んであいさつする礼儀と節度が身に付いた生徒○基本的な生活習慣（時間・食事等）を身に付け、体力向上に努める生徒○学習規律と家庭学習の習慣が身に付いた生徒○わからないことがあれば聞き、考えて成長しようとする生徒
共生（思いやりと感謝の心を大切にする生徒） <ul style="list-style-type: none">○仲間のために、心を込めた清掃をする生徒○まわりを気遣い、「ありがとう」「ごめんなさい」が言える生徒○話し合いを通じて、仲間と助け合って生活する生徒
創造（社会貢献する生徒） <ul style="list-style-type: none">○活動や学校行事を通じて、仲間とのつながりを深めようとする生徒○環境問題に目を向け、限りある資源を大切にしようとする生徒○多様な生き方や考え方を理解し、偏見や差別を許さない風土をつくる生徒○社会や地域の課題に目を向け、ボランティア活動を行う生徒

5. 求める教師像

- (1) 教育に情熱を持ち、一人一人の生徒を大切にする教師
- (2) 人間性や専門性の向上に努める教師
- (3) 多様性を認め、相手の立場に立って考えられる教師
- (4) 教育公務員としての自覚を持ち、誰からも信頼される教師

6. 重点目標 ～「白山中プライド」構築～

(1) 授業改善により、学ぶ楽しさを感じる授業づくりの推進

①わかる授業づくりの工夫

- ・生徒を授業から逃げさせないために、できることを一つずつ増やす。分からない時に、分かった振りをさせない。静かにノートを写していればOKではありません。授業の中で思考させることが大事。

- ・生徒同士が「教えて」「いいよ」と言える関係づくりをする。
- ・学習のゴールを示し、授業の見通しを生徒に持たせる。
- ・学習のつながりを理解させる。(学年の系統性、教科横断)

②タブレット端末の積極的な活用

- ・情報活用能力の向上とともに、情報モラル教育をする。

③学校図書館の活用

- ・「学習センター」「情報センター」としての活用。調べ学習の際に、インターネットの情報だけに頼らない。
- ・昼休みや放課後の居場所づくり。
- ・読書を通じて感性を育てたり、語彙力をつけたりする。

④自ら学ぶ力を高める「振り返り」の活用

- ・振り返り活動は、学習の質を高め生徒の成長を支える。「できた」「できない」だけでなく、次の学習につながる振り返りをする。
- ・振り返りを継続することで、思考力・判断力・表現力が高まる。

⑤「協働的な学び」と「個別最適な学び」を実現する授業研究

- ・「教える授業」から「自ら学ぶ授業」へ。自ら課題を見つけ、解決する力をつける授業。
- ・一斉授業と個別最適な学びは、二者択一ではありません。多様な学びの形態を。
- ・話し合う必要のある課題の設定。時には、学力の高い生徒でも難しいような課題の設定をする。

(2) よりよい生き方に結び付ける、心の教育

- ①よりよい生き方を考え、仲間と意見交換しながら自身の考えを深める道徳。
- ②いじめゼロ。偏見や差別をしない学校生活。
- ③互いの違いを認め、他の人から学ぶ姿勢。

(3) 安全安心な学校生活

- ①健康な生活
- ②体力の向上
- ③食育の推進
- ④防災意識の向上
- ⑤施設・設備の整備

(4) 生徒主体の実現

授業・行事・生徒会活動・部活動で、生徒自身が主体的に活動する。

(5) 三つの伝統

- ①笑顔のあいさつ
- ②心を磨く清掃
- ③心に響く歌声

(6) 社会貢献

- ①SDG s の視点を持った活動の日常化
- ②地域貢献（ボランティア活動）の実施

(7) 信頼される学校

- ①保護者との連携
- ②地域との連携
- ③職員同士の連携

7. 研究と重点課題

(1) 研究テーマ

「自ら、共に学び、活用できる生徒の育成

～「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を目指して～」

- ・やる気を引き出し、自ら課題を設定し取り組む、自学力を高める授業づくり。
- ・授業は小さな社会。助け合いや教え合いで共に学ぶ。「教えて」「いいよ」の関係づくり。
- ・タブレット、ICTの積極的活用と学校図書館の活用。

(2) 重点課題

①仲間との繋がりを大切にする学級・学年・学校づくり

- ・目標の共有と役割を明確にし、行事を通して仲間との絆を深める。
- ・互いを認め合い、支え合う関係作り。温かな言葉かけ。
- ・ルールやマナーが守られる風土。

②一人一人の居場所づくり（不登校生徒への対策）

- ・日常的な教育相談の実施。生徒にとって相談しやすい環境づくり。
- ・小さな変化を見逃さない見守りと、家庭との連携を大切にした支援（早期発見）。
- ・欠席したら必ず家庭連絡をし、3日目には家庭訪問を行う。気になっていることがあれば、共に解決していく（早期解決）。
- ・本人や保護者の意向を聞きながら、校内教育支援センター（学びの教室）や市教育支援センター（ひだまり・かけはし）の紹介をする。また、教育相談センターや他機関との連携を視野に入れながら、生徒の居場所を作り、自立支援を促す。心の教室相談員やSC、SSWの活用。
- ・生徒指導部会や長欠対策推進委員会等で情報共有し、担任や学年で抱え込まないように協力体制をつくる。

③「特別活動」と「総合的な学習の時間」の充実

- ・夢や理想を育む、キャリア学習。地域の力を活用した職場体験・職業人講話の実施。小中9年間をつなぐキャリア学習の継続。
- ・学年、学校を繋ぐ「キャリア・パスポート」の活用。
- ・国際理解、情報、環境、多様性等の現代的な諸課題や探究的な課題への取組の充実。

④働き方改革

- ・ICTの積極的活用による、ペーパーレス化、効率化の実施。
- ・業務内容の見直しと改善。ノー残業デイ（水曜日）の実施。
- ・CS（学校運営協議会）や「おやじの会」、地域コーディネーターの協力による外部人材や外部機関との連携。

⑤学校運営協議会の運用

- ・学校運営に地域の声を反映し、協力を仰ぐ。

⑥小中一貫教育の推進

・ 中区合同研修への参加 ・ 小学校の授業参観（9年間を見通した学び）
職員室の姿が、生徒の姿に映ります！ 白山中の目指す職員室は・・・

1. 健康第一

まずは先生が元気であることが大事です。食事や睡眠に気を配り、規則正しい生活を心がけましょう。また、心身共にリフレッシュする方法を身に付けてください。

2. 話ができる仲間に

困った顔や疲れた顔の先生に気がついたら、遠慮せず声をかけましょう。また、困ったことがあったら一人で悩まず、まわりに話して解決策を探していきましょう。相談される方も、一緒に考えることで気がついたり学んだりする機会になります。

3. 自分らしくいられる場所

悪口などが聞こえない職場でありたいです。「職員同士がいたわり合って、自分の考えを言える職場」にしたいと思います。職員同士が違いを認め合えなければ、生徒たちの違いを認めることは難しくなります。

4. リーダーとフォロワー

自分が主担当のときは、活動のねらいを明確にし、動きやすい仕組みを作り伝える努力をしていきましょう。周りの人はフォロワーとして、中心になっている先生の考えを理解して、自分に何が出来るか考えて動いていきましょう。

5. 客観的な視点を持つ

生徒だったらどう思うか、保護者だったらどう思うか、地域や世間はどう思うかという違う観点からの見方を大切にしましょう。電話の出方、言葉遣い、服装など生徒や保護者、地域の人に見られているという意識も必要です。「学校の常識は非常識」と言われないような、社会人としての常識を持っていたいものです。

6. 報連相を確実に

「報連相（報告・連絡・相談）＋確認」を大事にしましょう。報告は、まずあったことを学年主任や担当の先生に知らせること。報告を受けた先生は、教頭や教務主任に知らせてください。生徒指導等大きなものは、学年主任等に知らせるとともに、管理職にも直接伝えてください。報告することで、判断を上司に委ねることができます。

また連絡については、知らないことがトラブルの原因になりますので、必ず会議等で連絡しましょう。特に、生徒や保護者に関することで職員が共有すべきことは、漏れないようにしましょう。

7. お互いさまの気持ちで

自分一人で完結する仕事はありません。学校の仕事は、時には助けってもらったり、時には助けたりしながら成り立っています。お互いさまの気持ちで、助け合える職場にしましょう。